Ⅱ　浅海増養殖試験事業
2　魚病検査

小　川　　健・木　村　　創

目　　的

持込病魚等の検査・診断を行い，海面魚類養殖における適切な魚病対策を指導する。

方　　法

調査依頼のあった病魚等について，常法により細菌・寄生虫検査を行い，症状観察と併せて診断し，分離菌は必要に応じてディスク法による薬剤感受性試験を実施した。

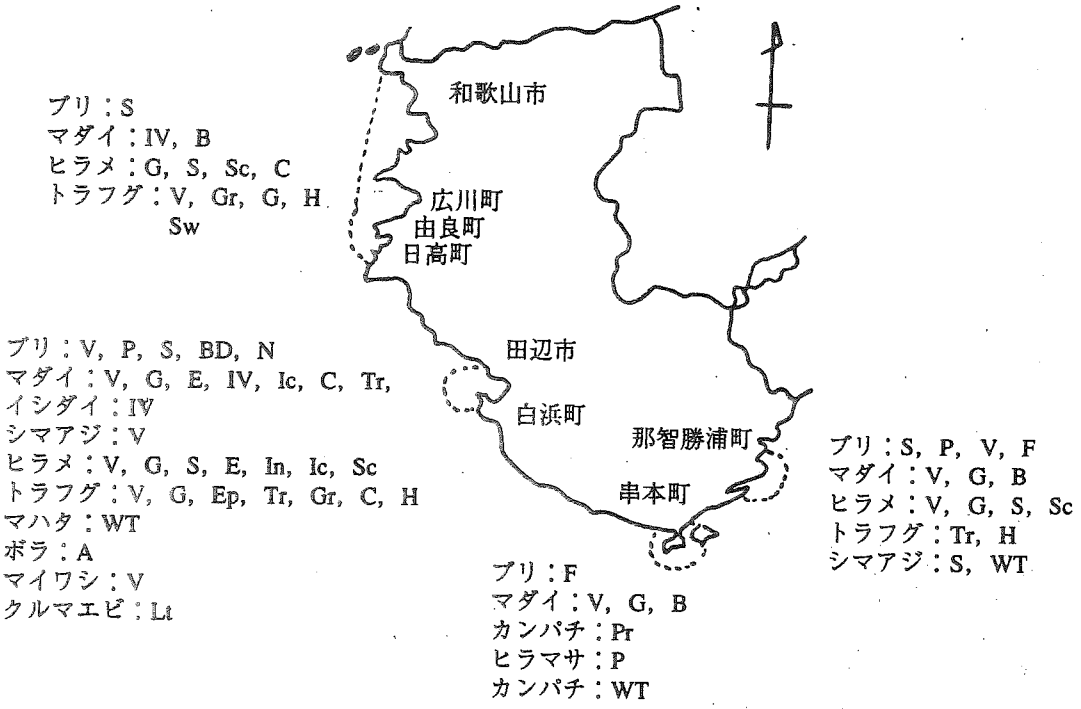

図1　県内魚病分布

V：ビブリオ病	P：類結節症	S：連鎖球菌症	N：ノカルディア症
E：エドワジェラ症	G：滑走細菌感染症	BD：細菌感染症	IV：イリドウィルス感染症
Lt：ロイコスリックス症	C：白点病	Tr：トリコディナ症	Gr：ギロダクチルス症
Ic：イクチオボド症	B：エラムシ症	H：ヘテロボツリウム症	Ep：エピテリオシスチス症
Sc：スクーティカ症	Pr：べこ病	F：餌料性疾患	SW：側弯症
WT：水温障害	A：環境障害		

表1　魚種別・月別病魚検査件数

魚種	病名	1991年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1992年 1	2	3月	計
ブリ	ビブリオ病			2										2
	類結節症			1	2	1								4
	連鎖球菌症			1		1	3			1			1	7
	ノカルディア症									1				1
	細菌感染症								2					1
	餌料性疾患		1										1	2
	不明							1						1
	小計		1	5	2	2	3	1		2			2	18
マダイ	ビブリオ病		1										1	2
	〃・滑走細菌感染症											1		1
	〃・イクチオボド症			1										1
	〃・イリドウィルス症					1								1
	滑走細菌感染症	1								1			1	3
	エドワジェラ症											1		1
	細菌感染症				1									1
	イリドウィルス感染症					5	4	2						11
	エラムシ症					1	4	1						6
	白点病									1				1
	イクチオボド症	2										1		3
	トリコディナ症							1						1
	寄生虫症							1						1
	不明	2				1	1							4
	小計	5	1	1	1	8	9	5		2		3	2	37
ヒラメ	ビブリオ病			1	1				2				1	5
	〃・滑走細菌感染症	1											1	2
	〃・イクチオボド症				1									1
	滑走細菌感染症	4										1	1	6
	連鎖球菌症				2	4		3	1	1				11
	〃・エドワジェラ症							1						1
	エドワジェラ症	1	1		1				1					4
	細菌感染症						1							1
	腸管白濁症								1					1
	スクーティカ症	1			1									2
	〃・白点病								1					1
	イクチオボド症	1												1
	不明	1						1				1	2	5
	小計	9	1	1	6	4	1	5	6	1		2	5	41
トラフグ	ビブリオ病							1						1
	〃・滑走細菌感染症			1										1
	滑走細菌感染症											1		1
	エピテリオシスチス症			1				1						2
	〃・ヘテロボツリウム症						1							1
	ヘテロボツリウム症							2	1		2			5
	ギロダクチルス症										1			1
	トリコディナ症			1	1		1		1					4
	白点病						1			2				3
	側弯症				1									1
	やせ			1	1									2
	不明		1	1							1			2
	小計		1	5	3		3	4	2	2	3	1		24
シマアジ	ビブリオ病											1		1
〃	連鎖球菌症	1				1								2
〃	不明											2		2
ヒラマサ	類結節症					1								1
カンパチ	べこ病						1							1
イシダイ	イリドウィルス感染病							1						1
ボラ	環境障害				1	1								2
ハタ類	不明				1		1					1		3
マイワシ	ビブリオ病					1								1
フナ	不明						1							1
クルマエビ	ロイコスリックス症					1								1
イセエビ	不明									1				1
	小計	1			2	5	3	1		1		4		17
合計		15	4	12	14	19	19	16	8	8	3	10	9	137

結　　果

本年度の病魚検査依頼はエビ類２件を含む137件でうち１件は淡水魚のフナであった。またこの中には県外からの依頼も11件含まれている。

魚種別・月例病魚検査件数を表１に，これを基に他の情報と併せて作成した県内魚病分布を図１に示した。

養殖尾数の減少に伴い，ブリの病魚持込件数が少なくなり，代ってマダイ・ヒラメ・トラフグの件数が増加してきた。また近年の特徴として，寄生虫性疾病の診断件数の増加と，種苗生産過程の仔稚魚の診断件数の増加があげられる。

各魚種の病害発生状況については，ブリとヒラメは例年と同様であったが，トラフグでヘテロボツリウム症による被害が各地域でみられるようになり，養殖上大きな問題となってきた。そしてマダイでは，昨年秋に四国で発生し養殖マダイの種苗に大きな被害を与えた新しいウィルス性疾病であるイリドウィルス感染症が本県でも発生し，しかも感染病魚が養殖用種苗として全国的に流通したため，疾病の全国的な蔓延と被害の拡大を招き，魚類養殖史上例をみない重大事となった。本県での発生は幸いにして由良町と田辺市および白浜町に限られ，串本町や那智勝浦町での発生はなかったが，それでも本症による斃死と感染病魚の焼却処分等により，マダイ稚魚約300万尾とイシダイ約7,000尾の被害をこうむった。